



葉画家 群馬直美の「葉っぱアーカイブ」vol.14 2022年4月

《葉画家・群馬直美がこれまでに描いた絵とエッセイをお楽しみください》

絵と文 群馬直美

西洋の王子様《ムベの花》

ジャンケンポンで、みんな一斉にパーを出したみたいなムベの葉っぱ。

若いツルから出た葉は、三枚だったりするけど、

生長に伴い五枚、七枚と小葉の数を増やしてゆく。

この様子を七五三になぞらえ、昔からめでたい植物として、庭に植えてきた。

いつも通る路地裏のお宅にも、ムベ垣根がある。

十年ほど前の晩秋、紫色に熟したムベの実をこの垣根から戴いて描いた。

一見、アケビのようだけどアケビと違って実は口を開けず、常緑なのでトキワアケビの別名もある。

葉っぱたちに覆い隠されていたのか、毎日ムベ垣の前を通っていたのに、

四月～五月に掛けて咲く花を、私は一度も目にすることがなかった。

身近なのに、神秘のベールに包まれた花。どんな花なんだろう。

知り合いのデザイナー、中村さんから花のツルを戴いた。

つぼみの先端が三つに裂けると、外側三枚が幅広で、内側三枚が線のように細い、

不思議な花が咲いた。半分閉じ加減で、みんなうつむいている。

じつは、ムベには花びらがない。

この花びらのように見えるのは、ガクなのだそうだ。

外側がつるりとしていて、内側が毛羽立ち赤紫色の筋が入ったオシャシなガクである。

なんだか西洋の王子様のように。

六本のオシベを持つ雄花と、三つのころんとしたメシベを持つ雌花が咲くというけれど、

私がもらったツルには雌花ばかりが咲いた。

そして、青みがかった黒い影絵みたいになって、枯れていった。

(『言の葉 葉っぱ暦』(けやき出版)掲載より)

表紙の絵「ムベの花」(雌花のツル)

赤紫色の筋がステキ。

デザイナー中村さんより4.20頂く

紙(アルシュ極細)/テンペラ size:358mm×382mm

(2011年7月9日 完成) © Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』群馬直美の木の葉と木の実の美術館』他。東京都立川市在住。https://www.wood.jp/konoha/

建設プロダクト ヤマト

株式会社ヤマト 総務部広報室

2021年4月発行

〒371-0844 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp